令和２年度（第１回）久留米市食料・農業・農村政策審議会　議事録

日　時：令和２年 11 月 13 日（金）
場　所：久留米シティプラザ　５階　大会議室
出席者：福田会長、吉永副会長、仁田原委員、林委員、吉田委員、野村委員、増崎委員、田中委員、永松委員、溝上委員、稲吉委員、市川委員、高良委員、矢次委員、高尾委員、半田委員

以上 16 名

（欠席者：宮田委員、中村委員、森永委員）

事務局：農政部　山口部長、山手次長、
農政部農政課　古賀課長、田川課長補佐、松延主査、園畠、太田
農業の魅力促進課　林田課長、古賀主幹、生産流通課　樋之口課長、
農村森林整備課　松尾課長、重松主幹、植田主幹、農業委員会　横溝局長、
田主丸総合支所産業振興課　井上課長、城島総合支所産業振興課　大坪課長、
三潴総合支所産業振興課　田中課長

傍聴者：なし

次　第：開会
１．新任委員紹介
２．組織改正
３．会長挨拶
４．報告事項
（１）第２期 食料・農業・農村基本計画　目標指標の最終実績
（２）第３期 食料・農業・農村基本計画
（３）農業分野における新型コロナウイルス感染症対策
（４）７月豪雨による農業被害の状況と支援策
５．その他
閉会

１．新任委員紹介

事務局	【配布資料　新任委員の紹介】

２．組織改正

事務局	【配布資料　農政部組織体制の見直しの説明】

３．会長挨拶

会　長	あいさつ

４．報告事項

（１）第２期 食料・農業・農村基本計画　目標指標の最終実績

事務局	【配布資料　第２期食料・農業・農村基本計画の最終実績の説明】
Ａ委員	目標値の設定について、令和２年度以降もこれまでと同じ目標値を設定するのか。コロナの影響により、どうしてもＣ評価になる項目が出てくることが考えられる。
事務局	第３期計画では指標の見直しを行っているが、コロナの影響で、目標達成には厳しい部分もあると思う。状況を見ながら、場合によっては、第３期の計画期間中に指標を見直す必要も出てくると考えている。
Ｂ委員	農業産出額がＣ評価になっているが、この ３ 年間、激甚災害を受けていることを考慮してほしい。農業が頑張っていないような印象を与える恐れがある。
会　長	Ｃ評価が出た場合には、こういった事情があったということを記録、広報することも大切である。

（２）第３期 食料・農業・農村基本計画

事務局	【配布資料　第３期 食料・農業・農村基本計画及び令和２年度実施計画の説明】
Ｃ委員	基本施策Ⅱの １ の④「緑花木」の振興について、商談会に出展するだけで振興になるのか疑問である。 緑花センターには、消費者のニーズ把握、数千にわたる取扱品種、26～27 万人の来場者といった強みがあるので、緑花センターとの連携による振興策についても、今後協議してほしい。
事務局	商談会への出展支援については、大阪・愛知等の大都市圏でのイベント・商談会など、バイヤーを含む様々な方が集まるところに出向いていただくことで、消費ニーズを把握し、新たな販路に繋がるといった成果が出てきている。 緑花センターについては、みどりの里づくり推進機構等と連携し、グリーンマルシェの開催など、地域と一体となった緑花木のＰＲを推進していただいているところである。今後も連携を強化して取り組んでいく。
Ｄ委員	計画としてイベント等の項目が挙げられているが、コロナが収束しない状況下では、これまでと違った情報発信方法を検討するべきではないか。 先ほどの説明でＹｏｕＴｕｂｅの話もあったが、ＩＣＴ環境を整えながら、情報発信の仕方について検討していただきたい。
会　長	計画されている各種イベントについても、遠隔やリモートなど、やり方を模索しながら実施するよう検討いただきたい
Ａ委員	基本施策Ｉの 3.多様な人材の活用について、農福連携により人材を確保したいという農家はたくさんいるが、どこに相談すればいいか分からないといった声をよく聞く。 就労支援事業所と農家が会って話ができる場があれば、もっと取り組みが進むのではないか。

Ｄ委員	仕事を探している就労支援事業所は多いが、どの程度の作業を求められているのか分からないようである。マッチングの場については私からもお願いしたい。
事務局	一昨年、就労支援事業所を対象に、農作業への参入について意向調査を実施した。その中で、どういった作業があるのか分からないといった声もあったため、現在、作業工程を細かく分けた事業者向けの DVD を作成している。完成後は、就労支援事業者や農業者への説明会等を開催し、マッチングに繋げていきたい。
Ｅ委員	基本施策Ⅲの 2 の①荒廃農地の発生抑制と解消について、耕作放棄地を 9ha 解消する目標を掲げており、荒廃農地を再生して活用する認定農業者等を支援するということだが、どのように進めていくのか。
事務局	認定農業者等が荒廃農地を新たに所有または借受し、再生する場合に支援していく。
Ｅ委員	どのようにきっかけ作りをしていくのか。市が荒廃農地を再生する担い手を見つけるのか。
事務局	昨年、県・市・ＪＡ・農業委員等で構成する「農地利用最適化協議会」を立ち上げた。その中で、農地パトロール等による遊休農地の現状を報告し、情報を共有化するとともに、地域特性に応じた農地の使い方について意見交換しながら、きっかけ作りを進めていきたい。 また、新たに導入された「全国農地ナビ」では、農地利用に関する意向調査結果や農地の貸借状況等を公表できる枠組みができているため、令和 7 年度に向けて、適切に情報を管理しながら、農地を探す方への情報提供に努めたい。
Ｅ委員	耕作放棄地は、開拓しても 1～2 年は土づくりから始めなければならず、木を切って耕せばすぐに使えるというものでもない。今後大きな問題になっていくので、こういったことも考慮しながら取り組んでいただきたい。

（３）農業分野における新型コロナウイルス感染症対策

事務局	【配布資料　農業分野における新型コロナウイルス感染症対策の説明】

（４）7 月豪雨による農業被害の状況と支援策

事務局	【配布資料　7 月豪雨による農業被害の状況と対応について説明】

５．その他

事務局	久留米農業体験 くる農（2020 年秋冬号）の紹介
事務局	なるほど人権セミナー2020 の紹介
会　長	第 3 期基本計画については、コロナ禍という、計画策定段階では想定していなかった状況下でのスタートとなった。 コロナ禍の影響は数年続くとも言われている。令和 7 年度の目標値が設定されているが、その妥当性をそれぞれのセクションで検討していただきたい。 当初の目標ありきで、政策や事業の妥当性を測るとなると、久留米の農業・食料に関わる皆さんが努力しているにもかかわらず、評価が非常に悪いといったことにもなりかねないので、ぜひ検討をお願いしたい。